

「おもてなし防災」プロジェクト

～ “守る”という、おもてなし～

1. めざす姿：「まず逃げる、余裕があれば避難誘導できる市民を増やす」

大阪・関西万博の開催時に急増する外国人観光客に対し、南海トラフ巨大地震が起きた場合を想定し「命を守る」仕掛けを埋め込んだ「防災モデルシティ・大阪市港区」を公民連携の期間限定プロジェクトで実現し、その成果を国内外に広げる。

2. 現状と課題

2025年4月13日から大阪・関西万博が開催され、会期中の海外からの来場者は、約350万人が見込まれている。

大阪の街では、観光地などで外国語の表記などが増えてきた一方、防災に対する表記はまだ十分とは言えない状況である。

南海トラフ巨大地震が発生した場合、港区では114分で1mを超える津波の第1波が到達すると想定されており、特に港区を含む湾岸地域で津波による浸水被害が発生する可能性が高い。

そのため、「より早く、より高い場所へ避難」できるよう、地域住民や来訪者への事前の周知が必要とされており、特に地理に不案内でかつ日本語がわからない外国人観光客の避難誘導が大きな課題となっている。

3. プロジェクトの概要

津波避難誘導に資する情報発信の手法やツールの提案などを受け、外国人観光客に対する効果的な防災意識の啓発や適切な避難誘導に寄与することを目的として「おもてなし防災」の名のもとに取り組みを展開していく。

(1) 実施体制

主催：一般社団法人 FUKKO DESIGN

制作：株式会社 TBWA HAKUHODO

協力：大阪市港区役所

(一社)FUKKO DESIGN、(株)TBWA HAKUHODOとそれぞれ連携協定を締結

(令和6年6月17日)

(2) プロジェクト ロゴ

おもてなしの精神を防災と結びつけ、外国人観光客に向けて「安全」という贈り物を提供することを目指している。その象徴として、贈り物の「結び目」をロゴにした。

さらに、「結(ゆい)」には、お互いに助け合う意味が込められており、結び目をモチーフにすることで、安全や共助の精神を表現している。

また、「おもてなし防災」のロゴが「結(ゆい)」でできているのは、これから多くの企業・団体・自治体等と手を結び、外国人観光客の防災に取り組んでいく願いもこめられている。



(3) 具体的な取り組み

まずは「おもてなし防災」の理念を広く知ってもらい、明日、巨大地震が起きても対応できる日本人への普及啓発を行う。

特に、飲食店やサービス業のスタッフが使えるツールの発出や、ポスター掲示、SNS等を使った広報に取り組む。

① マニュアルの作成・配布

外国人観光客が集まる飲食店やサービス業のスタッフに避難場所の確認や誘導の仕方を啓発する。



② ポスター・フライヤーの作成・掲示配架

「外国人観光客の避難誘導について、日本人の側が意識を持つ」ためのメッセージを掲載したポスターを掲示し「おもてなし防災」の機運を醸成するとともに、「外国人観光客」自身に災害情報を伝えるポスターの掲示や発災時に提示できるよう事業者等に備えてもらう。

フライヤーは、緊急時に外国人観光客に指差して避難を指示し、津波避難ビルへのルートを書き込めるツールとして、日本語が通じない方に渡すだけで最低限の避難誘導ができるよう、事業者等に印刷して備えてもらう。

《ポスターデザインの一例》

機運醸成・メッセージ①



機運醸成・メッセージ②

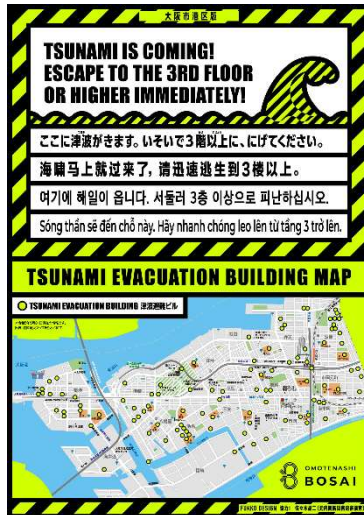


災害啓発



《フライヤーデザインの一例》

避難誘導



③ ウェブサイト・SNSアカウントの開設

「おもてなし防災」の目的やプロジェクトの紹介、上記「おもてなし防災」に関するマニュアルやポスター・フライヤーのダウンロードができるウェブサイトを開設。

また、「おもてなし防災プロジェクト」のアカウントを通じて、防災情報を発信していく。

ウェブサイト:<https://omotenashi-bosai.jp/>

X アカウント:omotenashibosai

X URL:<https://x.com/omotenashibosai>



ウェブサイトはこちら↑

④ おもてなしパートナーズ(プロジェクト参加企業・団体)の募集

プロジェクトに賛同し、一緒に活動を広めてくれる企業・団体・自治体等を募集する。

応募のあった企業・団体・自治体等を「おもてなし防災パートナーズ」として登録、連携し、「おもてなし防災」のロゴやツールを用いて啓発に取り組み、それぞれの得意分野やアイデアを活かしながら日本中にその取り組みを広める。